第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成16年11月26日(金) 2校時 児 童 4年C組 男18名 女18名 計36名 授業者 小 野 和 枝

1 単元名

くらしの中の世界について話し合おう (くらしの中の和と洋)

2 単元について

(1)教材について

本教材は話し合いの話題提示という位置づけで、「住」を例に和洋両文化のよさが、くらしの中にいかに取り入られているかが比較して述べられ、くらしの中の世界の文化について話し合うための共通理解事項として取り上げらている。「ウミガメのはまを守る」に、段落相互の関係を考えて説明文を読んだことをうけて、本単元では内容を大きくまとめたり、必要なことは細かい点に注意したりしながら読んでいく。そして、読んだことを参考に、自分達の身の回りにある世界の文化について調べ、考えたことをグループ毎に話し合う展開になる。

(2)児童について

子ども達は、昨年度からの朝読書に取り組んでいることもあり、本を読む機会が増え、様々な文章にも触れることが多くなってきている。しかし一方で読解力に大きな差がでてきている。一読して大体の筋をとらえられる児童もいるが、拾い読みをするのが精一杯の児童もおり、挿絵や写真だけに頼りすぎないようを理解できていないことも少なくない。漢字や言葉の学習への取り組みの意欲も読解力にも大きな差が見られる一因と考えられる。また、接続詞等を手がかりに段落相互の関係についてとらえるということも苦手としている児童が多い。

(3)指導について

本単元では、読み取りに重点を置き、段落ごとに大事な言葉を手がかりに和室と洋室の違いやそこから生まれるよさについて細かく読み取らせ、要点をまとめる活動を大事にしていきたい。そのため、1単位時間の中に音読や視写を取り入れていく。また、単元の初めに学習した新出漢字や言葉の意味調べを読み取りにつなげていくためにも、授業初めの5分程度で言語事項等の確認(スキルタイム)を意図的に取り入れて読み取りに生かして生かせるようにしていくことにする。また、接続詞を手がかりにした段落相互の関係から文章構成をとらせさえたい。

3 指導目標及び評価の観点

3 指導口派及び印画の観点						
	関心・意欲・態度	話すこと聞くこと	書くこと	読むこと		
単元の目標	くらしの中の世界	互いの考えを比べ	必要な事柄を選択	説明されている内		
	の文化に興味を持	ながら話し合いを	して書く。	容を大きなまとま		
	って学習に取り組	する。		りでとらえたり、		
	む。			大事な語句に注意		
				したりしながら文		
				章を正しく読む。		
評価の観点	興味を持って教材	自分の考えとの相	観点を明らかにし	和室と洋室のよさ		
	文を読み進めた	違点や共通点に注	て書くことができ	をどんな観点で整		
	り、興味や関心の	意しながら聞くこ	たか。	理しながら述べて		
	ある話題について	とができたか。		いるかに注意して		
	調べて意欲的に話			読むことができた		
	し合いに参加した			か。		
	りしたか。					

4 指導計画(15時間扱い)

・単元冒頭と教材文を通読し、感想を持つ。

・学習計画を立てる。

・新出漢字や語句についての学習をする。

・くらしの中の和と洋の文章構成を確かめる。

・くらしの中の和と洋を読み、「和室」と「洋室」のそれぞれの 特色やよさを読み取る。

・くらしの中の世界の文化について、考えたり調べたりする。

・学習のまとめをする。

6時間(本時4/6)

2 時間

2 時間

2 時間

1 時間

1 時間

1 時間

5 本時の指導

(1)ねらい

・洋室と和室それぞれの使い方のよさについて読み取ることができる。

(2)展開

 商 言葉の学習(スキルタイム) ・学習基本語彙の確認 1 前時の学習を想起し、本時の学習場面を 確認する。 ・本時の学習場面を各自音読する。 2 学習課題を確認する。 洋室と和室は、それぞれ部屋の使い方で どんなよさがあるのだろう。 3 本時の学習範囲を音読する。 ・ 洋室と和室の使い方のよさを読み取る。 和室と洋室の使い方の違いは何によって決まるのでしょうか。 ・ 洋室と和室をれぞれに置かれる家具についてよいでしょう。」 (すごし方の仕上げ方とそこに置かれる家具いてよいでしょう。」 (すごし方の仕上げ方とそこに置かれる家具があるが、和室は家具をほとんどないということに着目させる。(ざぶやふとんは家具ではない点に気づる。) ・ 洋室と和室ぞれぞれに置かれる家具でいたよいでしょう。」 (すごし方の仕上げ方とれたいろことを確認する。」 ・ 洋室と和室をれぞれに置かれる家具でいたよいでしょう。」 (すごし方の仕上げ方とでに当かれる家具があるが、和室は家具をほとんどないということに着目させる。(ざぶやふとんは家具ではない点に気づる。) ・ 洋室と和室ぞれぞれがあるのでしょう。 (書き出した家具を比較しながらそれないというよさについて考えさせ、の中からよさについて考えさせ、の中からよさについて考えさせ、の中からよさについて考えさせ、の中からよさについて書かれているろを見つける。 ・ なかなか見つけられない児童には、クシートを使わせる。) 展開		
め 言葉の学習(スキルタイム) ・学習基本語彙の確認 て 前時の学習を想起し、本時の学習場面を 確認する。 ・ 市時の学習場面を各自音読する。 ・ 市時の学習場面を各自音読する。 ・ 本時は、洋室と和室の「すごし方」の さについて学習したことを確認する。 ・ 本時は、洋室と和室の「使い方」の について学習したことを確認する。 ・ 本時は、洋室と和室の「使い方」の について学習することを確認する。 ・ 本時は、洋室と和室の「使い方」の について学習することを確認する。 ・ 本時の学習課題を考えながら読むこ 確認する。(指名読) ・ 本時の学習課題を考えながら読むこ 確認する。(指名読) ・ 本時の学習課題を考えながら読むこ 確認する。(指名読) ・ 本時の学習課題を考えながら読むこ 確認する。(指名読) ・ 本時の学習課題を考えながら読むこ 確認する。(「和室と洋室のもっとも大きな違い」 床の仕上げ方とそこに置かれる家具 いってよいでしょう。」(すごしりの仕上げ方とそこに置かれる家具 いってよいでしょう。」(すごしりの仕上げ方に使い方 ことに着目させる。(ざぶ やふとんは家具ではない点に気づる。) ・ 洋室と和室それぞれに置かれる家具について書いて ある文を見つけて書き出す。 ・ 洋室と和室を比較しながらそれ の使い方のよさについて考えさせ、のを見つける。 なかなか見つけられない児童には、クシートを使わせる。 大事な語句を落とさずに、要点をま	段	学習活動	指導上の留意点と評価()	
 ・学習基本語彙の確認 1 前時の学習を想起し、本時の学習場面を 確認する。 ・本時の学習場面を各自音読する。 (~ 段落) 2 学習課題を確認する。 洋室と和室は、それぞれ部屋の使い方でどんなよさがあるのだろう。 本時の学習範囲を音読する。 洋室と和室は、それぞれ部屋の使い方でどんなよさがあるのだろう。 ・ 課題を全員で音読する。 ・ 課題を全員で音読する。 ・ 本時の学習課題を考えながら読むこ確認する。(指名読) ・ 本時の学習課題を考えながら読むこ確認する。(指名読) ・ 本時の学習課題を考えながら読むこを確認する。 ・ 本時の学習課題を考えながら読むこを確認する。(指名読) ・ 本時の学習課題を考えながら読むこを確認する。(指名読) ・ それぞれの使い方のよさた大きな違い床の仕上げ方とそこに置かれる家具の上げ方とそこに置かれる家具いってよいでしょう。」(すごし方の仕上げ方とを正とも大きな違りないということに着目させる。(ざぶやふとんは家具ではない点に気づる。) ・ 洋室と和室それぞれに置かれる家具について書とについて書を記さる。) ・ 書き出した家具を比較しながらそれの使い方のよさについて書がれているを見つける。 ・ なかなり見つけられない児童には、クシートを使わせる。 大事な語句を落とさずに、要点を表 ・ 本時は、洋室と和室の「すごし方」なについて考えるとでは認する。 ・ 本時は、洋室と和室の「すごし方」なについて書がれる。 ・ 本時は、洋室と和室も見で音読する。 ・ 本時は、洋室には家具が使い方によって置かれる家具ではない点に気づる。) ・ 書き出した家具を比較しながらそれの使い方のよさについて考えさせ、の使い方のよさについて書えさせ、のずなが見つける。 ・ なかなり見つけられない児童には、クシートを使わせる。 大事な語句を落とさずに、要点を表 ・ 本時は、洋室と和室の「すごし方」のは上げ方とと正置がれる。 ・ ではない点に気がない見ではない点にないる。 ・ なかなが見つける。 ・ なかなが見ので落とさずに、要点を表しないまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまた	階			
 ○ 前時の学習を想起し、本時の学習場面を 確認する。 ○ 本時の学習場面を各自音読する。 ○ 本時の学習場面を各自音読する。 ○ 学習課題を確認する。 ○ 洋室と和室は、それぞれ部屋の使い方で どんなよさがあるのだろう。 ○ 本時の学習範囲を音読する。 ○ 本時の学習範囲を音読する。 ○ 本時の学習範囲を音読する。 ○ 本時の学習課題を考えながら読むこ 確認する。(指名読) ○ 本時の学習課題を考えながら読むこ 確認する。(指名読) ○ 本時の学習課題を考えながら読むこ 確認する。(指名読) ○ 本時の学習課題を考えながら読むこ 確認する。(指名読) ○ 大事を記する。 ○ 本時の学習課題を考えながら読むこ 確認する。(指名読) ○ 本時の学習課題を考えながら読むこ 確認する。(指名読) ○ 大事な語句を考えながら読むこ で記さる。(指名読) ○ 本時の学習課題を考えながら読むこ で記する。(当名読) ○ 本時の学習課題を考えながら読むこ で記する。(当名読) ○ 本にいることを確認する。 ○ 本にはいることを確認する。 ○ 本にはいることを確認する。 ○ 本にはいることを確認する。 ○ 本にいることを確認する。 ○ 本にいることを確認する。 ○ 本にいることを確認する。 ○ 本にはいることを確認する。 ○ 本にはいるによれているまとはないといることにもはいることを確認する。 ○ 本にはいることを確認する。 ○ 本にはいるにはいるにはいることを確認する。 ○ 本にはいるにはいるにはいるにはいるといるにはいるにはいるといるにはいるといるにはいるといるといるにはいるといるにはいるといるにはいるといるにはいるにはいるといるにはいるにはいるといるにはいるといるにはいるといるにはいるといるといるといるといるにはいるといるといるといるといるといるにはいるといるといるといるといるといるとはいるといるといるといるとはいるにはいるといるといるといるといるといるといるといるとはいるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるとい	め	言葉の学習(スキルタイム)	・本時で出てくる語句について意味を確認	
と 確認する。 ・本時の学習場面を各自音読する。	あ	・学習基本語彙の確認		
 ・本時の学習場面を各自音読する。 (~ 段落) 2 学習課題を確認する。	て	1 前時の学習を想起し、本時の学習場面を	・前時は、洋室と和室の「すごし方」のよ	
2 学習課題を確認する。	٤	確認する。	さについて学習したことを確認する。	
2 学習課題を確認する。		・本時の学習場面を各自音読する。	・本時は、洋室と和室の「使い方」のよさ	
10 洋室と和室は、それぞれ部屋の使い方でどんなよさがあるのだろう。 ・課題を全員で音読する。 3 本時の学習範囲を音読する。 ・本時の学習課題を考えながら読むこ確認する。(指名読) 4 洋室と和室の使い方のよさを読み取る。和室と洋室の使い方の違いは何によって決まるのでしょうか。 ・それぞれの使い方のよさが、家具の方に表れていることを確認する。「和室と洋室のもっとも大きな違い床の仕上げ方とそこに置かれる家具いってよいでしょう。」(すごし方の仕上げ方・使い方=置かれる家具いってよいでしょう。」(すごし方の仕上げ方・使い方=置かれる家具でいてよいでしょう。」・洋室には家具が使い方によって置か物があるが、和室は家具をほとんどないということに着目させる。(ざぶやふとんは家具ではない点に気づる。) び合い 置かれる家具によって、洋室と和室の使い方にそれぞれどんなよさがあるのでしょう。・注室と和室それぞれのよさについて書いて考えさせ、の中からよさについて書かれているるを見つける。・なかなか見つけられない児童には、クシートを使わせる。大事な語句を落とさずに、要点をまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	え	(~ 段落)	について学習することを確認する。	
どんなよさがあるのだろう。		2 学習課題を確認する。		
分 ・本時の学習範囲を音読する。 ・本時の学習課題を考えながら読むこ確認する。(指名読) 4 洋室と和室の使い方のよさを読み取る。和室と洋室の使い方の違いは何によって決まるのでしょうか。まるのでしょうか。「和室と洋室のもっとも大きな違い床の仕上げ方とそこに置かれる家具でしまりでしまり。」(すごし方の仕上げ方・使い方=置かれる家具でしまりでしまり。」(すごし方の仕上げ方・使い方=置かれる家具でしまりでしまりであるが、和室は家具をほとんどないということに着目させる。(ざぶやふとんは家具ではない点に気づる。) ヴ ご 百 置かれる家具によって、洋室と和室の使い方のよさについて書いている。とんは家具ではない点に気づる。) ・洋室と和室それぞれのよさだついて書いてある文を見つけて書き出す。 ・書き出した家具を比較しながらそれの使い方のよさについて考えさせ、の中からよさについて考えさせ、の中からよさについて書かれているるを見つける。 ・洋室と和室それぞれのよさについて書いている。次シートを使わせる。大事な語句を落とさずに、要点をま		洋室と和室は、それぞれ部屋の使い方で	・課題を全員で音読する。	
3 本時の学習範囲を音読する。		どんなよさがあるのだろう。		
4 洋室と和室の使い方のよさを読み取る。 和室と洋室の使い方の違いは何によって決 まるのでしょうか。	分		・本時の学習課題を考えながら読むことを	
和室と洋室の使い方の違いは何によって決まるのでしょうか。 まるのでしょうか。 た		3 本時の学習範囲を音読する。	確認する。(指名読)	
ひとり		4 洋室と和室の使い方のよさを読み取る。	・それぞれの使い方のよさが、家具の置き	
上では				
 リ 学 び ・洋室と和室それぞれに置かれる家具について ナートに書き出す。 い 置かれる家具によって、洋室と和室の使い方にそれぞれどんなよさがあるのでしょう。 ・洋室と和室それぞれのよさについて書いてある文を見つけて書き出す。 ・ 洋室と和室それぞれの使い方のよさについて書いてある文を見つけて書き出す。 ・ 洋室と和室それぞれの使い方のよさについて書いての中からよさについて書かれているのを見つける。 ・ なかなか見つけられない児童には、クシートを使わせる。 大事な語句を落とさずに、要点をま 	_	まるのでしょうか。	「和室と洋室のもっとも大きな違いは、	
 学び・洋室と和室それぞれに置かれる家具についてノートに書き出す。 があるが、和室は家具をほとんどないということに着目させる。(ざぶやふとんは家具ではない点に気づる。) ・書き出した家具を比較しながらそれのたさについて書いてある文を見つけて書き出す。 ・洋室と和室それぞれのよさについて書いてある文を見つけて書き出す。 ・なかなか見つけられない児童には、クシートを使わせる。 大事な語句を落とさずに、要点をま 	٤		床の仕上げ方と <u>そこに置かれる家具</u> だと	
 び ・洋室と和室それぞれに置かれる家具についてノートに書き出す。 ヴ び 合い 置かれる家具によって、洋室と和室の使い方にそれぞれどんなよさがあるのでしょう。 ・洋室と和室それぞれのよさについて書いてある文を見つけて書き出す。 5 洋室と和室それぞれの使い方のよさについてまいたのよう。 ・ 本かなか見つけられない児童には、クシートを使わせる。 大事な語句を落とさずに、要点をま 	_		いってよいでしょう。」 (すごし方=床	
・	_		の仕上げ方・使い方=置かれる家具)	
学 び 合 に	び		・洋室には家具が使い方によって置かれる	
び さい では		てノートに書き出す。	物があるが、和室は家具をほとんど置か	
 合い 置かれる家具によって、洋室と和室の使い方にそれぞれどんなよさがあるのでしょう。 ・洋室と和室それぞれのよさについて書いてある文を見つけて書き出す。 5 洋室と和室それぞれの使い方のよさについて書いているの中からよさについて書かれているるを見つける。 ・なかなか見つけられない児童には、クシートを使わせる。大事な語句を落とさずに、要点をまます。 			ないということに着目させる。(ざぶとん	
 この中からよさについて書かれている。 ・洋室と和室それぞれのよさについて書いてある文を見つけて書き出す。 ・ 洋室と和室それぞれの使い方のよさについて書いてある文を見つけて書き出す。 ・ 本かなか見つけられない児童には、クシートを使わせる。 大事な語句を落とさずに、要点をままま。 	_		やふとんは家具ではない点に気づかせ	
方にそれぞれどんなよさがあるのでしょ う。 ・洋室と和室それぞれのよさについて書いて ある文を見つけて書き出す。 5 洋室と和室それぞれの使い方のよさにつ 5 大事な語句を落とさずに、要点をま			- /	
う。 ・洋室と和室それぞれのよさについて書いて ある文を見つけて書き出す。 ち 洋室と和室それぞれの使い方のよさについて書いて ちずに、要点をま	L١		・書き出した家具を比較しながらそれぞれ	
・洋室と和室それぞれのよさについて書いて		方にそれぞれどんなよさがあるのでしょ	の使い方のよさについて考えさせ、文章	
ある文を見つけて書き出す。 ・なかなか見つけられない児童には、 クシートを使わせる。 5 洋室と和室それぞれの使い方のよさにつ 大事な語句を落とさずに、要点をま			の中からよさについて書かれているとこ	
クシートを使わせる。 5 洋室と和室それぞれの使い方のよさにつ 大事な語句を落とさずに、要点をま			ろを見つける。	
5 洋室と和室それぞれの使い方のよさにつ 大事な語句を落とさずに、要点をま		ある文を見つけて書き出す。	・なかなか見つけられない児童には、ワー	
いて要点をまとめる。			大事な語句を落とさずに、要点をまとめ	
		いて要点をまとめる。		
			・教師が書いた要点を視写し、自分が書い	
分といべさせる。	分		た要点と比べさせる。	

	要点	
	洋室は何をするかがはっきりしていて、	
	そのために使いやすく作られており、和室	
	は一つの部屋をいろいろな目的に使うこと	
	ができる。	
		・まとめの読みをする。(一斉読)
ıŠı	6 本時の学習を振り返る。	・本時の学習を振り返り、学習への取り組
IJ	・自己評価をし、本時の学習を振り返る。	みや内容についての自分のがんばりを確
か		認させ、次時の学習意欲へつなげさせる。
え	・次時の学習内容を知る。	・次の時間はまとめの段落の読み取りと文
IJ		章の構成についての学習をすることを知
5		らせる。
分		

(3)評価

評 価 規 準	具	体の評価規	準
(方法)	A:十分満足できる	B:おおむね満足	C:支援を要する児童
		できる	への手立て
洋室と和室それぞれ	洋室と和室それぞれ	洋室と和室それぞれ	ワークシートを使わ
の使い方のよさについ	の使い方のよさについ	の使い方のよさについ	せ、大事な言葉を入れ
て読み取ることができ	て、大事な言葉を落と	て大事な言葉を落とさ	て要点をまとめること
る。	さずに簡潔に要点をま	ずに要点をまとめてい	ができるように支援す
	とめている。	る。	る。

6 板書計画

くらしの中の和と洋

和室と洋室のもっとも大きな違い

床の仕上げ方 過ごし方の違い

置かれる家具一使い方の違い

課題

洋室と和室は、 それぞれ部屋の使い方でどんなよさがあるのだろう。

よさ 置かれる家具 何をするかがはっきりしていて、 ・ベッド 勉強づくえ イス テーブル 洋 室 写真 よさ 置かれる家具 ほとんどない 一つの部屋をいろいろな目的に使う ・(ふとん) ・(ざぶとん) ・ざたく 和 室 写真

大事なことば

そのために使いやすく作られている。

ことができる。

- ・和室は~。洋室は~。(主語)
- ・何をするかがはっきり
- ・いろいろな目的

要点

部屋をいろいろな目的に使うことができる。 洋室は何をするがはっきりしていて使いやすく作られており、 和室は一つの